

碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
 神奈川 碩心 会 発行

8年7月現在 返葉大会 （合）	7月地区計 地区区計 地区区計	会員数 154名 217名 42名 413名	8年7月 発行 加藤 中	(288号) 相者 集者 岳者
-----------------------	-----------------------	------------------------------------	--------------------	--------------------------

行事予定

○県本部指導者吟道講座

日時・8月11日(日)9時受付

会場・エポック中原大ホール

※ JR南武線「武蔵中原駅」下車、改札口より連絡通路で直接会場に入れます。

受講 県本部所属の会の準師範以上

資格 本年準師範合格者も含む

※ (テキスト、弁当、茶が出ます)

~~~~~ 8 ~~~~~

横須賀第二地区大会

### 連吟コンクール入賞 (3名)

6月9日、鎌倉中央公民館分館に於て、8チーム中、碩心会より左記チーム入賞。

- 1位・(村井知子 森久美子 駒場咲子)
- 4位・(上村 章 鈴木義男 行谷正一)

神奈川県地区大会

### 合吟コンクール入賞 (10名)

6月23日、綾瀬文化会館に於て行なわれ、13チーム中、碩心会より下記チーム入賞。

磯村朋子・森はるみ・村井知子・西川幸子

2位 田中好子・森久美子・小金美智子

中村豊子・駒場咲子・渡辺麗子

矢嶋時子・川口喜美子・奥野敏子

4位 鈴木洋子・池田敏子・行谷経子・岡本和江

守谷悦子・中村不二子・蛭子トミヨ

又、構成吟に根岸啓風、舞に佐藤湧岳、白

井麗岳さんが参加されました。

碩心会温習会 (逗子市立図書館ホール)

### 合吟コンクール入賞 (5名)

6月30日、逗子図書館ホールに於て行なわれ、12チーム中左記チーム入賞。

1位 (逗子A) 村井知子・安田好子・中山俊江

中村豊子・高見陽子

2位 (堀内F) 矢嶋時子・大坪克子・池田敏子

鈴木美佐子・杉山美代子

3位 (真澄) 佐藤由紀子・森はるみ

嶋津幸子・服部きく・福本モト

4位 (悠吟) 小野佐智子・松岡節子

時田千代・下村佳子・中村川子

5位 (逗子A) 米山茂子・木村のり子

駒場咲子・金子憲子・鈴木恵子

## 碩心会 会長交替

去る5月19日、総会での役員改選に伴い、根岸先生より健康上の理由により会長交替の申し出があり、加藤(補)先生に交替しました。月報をめぐり顧みますと、昭和51年4月、三井雲岳(岳叢)先生と交替会長に就任され、二十年の長い間の重責を全うされました。ありがとうございました。

今後は「健康第一」をモットーに、お体を大切に、顧問の立場から、碩心会を見守って下さるようお願いいたします。

## 碩心会 副部長・副地区長決定

|        |       |       |
|--------|-------|-------|
| 総務副部長  | 宇都宮徳岳 | 鈴木江岳  |
| 許証     | 渡辺秀岳  | 白井麗岳  |
| 広報     | 山口岳夕  | 佐久間爽岳 |
|        | 磯村朋岳  |       |
| 教務     | 立澤御岳  | 水上昌岳  |
| 会計     | 高井道岳  | 小菅幸岳  |
| 企画     | 内山俊岳  | 川瀬弘岳  |
| 逗子副地区長 | 田中明岳  | 森 晴岳  |
| 葉山     | 鈴木喜岳  | 福本辰岳  |
| 大船     | 岩崎岳恵  | 岡本瑞岳  |

## 吟道温習会を終えて思うこと

真澄 牛尾 昭山

六月三十日の恒例の温習会は、梅雨の谷間の晴天に恵まれ、定刻にはほぼ満席となり、日頃の詩吟に対する会員皆様の熱意の現れと感じられる風景でした。開会のことば、碩心会の詩の大合吟、会員吟詠と続き、許証授与、高齢者会員のほほえましい表彰、はなやかな詩舞に心安らぎ、又真剣な合吟コンクール等、多彩な行事を整然とこなし、万歳三唱のうち四時三十分無事終了しました。

私事ながら、今回に限らず感じることですが、このように完璧に近い会の企画、プログラムの作成、吟者の順位、全員参加の公正さ等々、発表会のある度に、陰で準備なさる会長以下、役員諸先生の賜と、私共一般会員はその努力に大いに敬服いたしております。

今回特に印象的であったことは、多年に亘り、碩心会に御功績のあった根岸岳萃先生の会長辞任のことです。年を重ねる歳月の流れで御病氣になられたことは仕方ないとは言え、長年に亘って日夜吟の後進指導に当られたことは、我々周知のことながら、その苦勞の為

体調をくずされたのが遠因だったのかも知れません。

当日、壇上より御不自由の身で、辞任の挨拶をされました。こんな病氣になって、ハッキリと話せないと二度も繰り返される残念のお気持をお察しすると、どうかくれぐれも御養生と、リハビリに専念され、速やかな健康の御快復を願うのみです。

## 神奈川県 合吟コンクールに参加して

逗子B 磯村 朋 岳

色とりどりの紫陽花の咲き誇る6月23日、右大会が綾瀬市文化会館に於て盛大に開催されました。修礼、国歌斉唱にはじまり、プロは進み、碩心会からは合吟二題出吟。

そして合吟コンクールには、逗子、葉山からの二チームが参加しました。会場の外で一度声を出してから早目の昼食をすませ、式典の間に着かえ。さあ、そしていよいよ出番です。みんなの顔つきが変わります。真剣勝負、泣いても笑っても一回限り……

葉山チームはすばらしい吟でした。私達にも気合が入りました。そして終わりました。さ

あコンクールの結果です。優勝は横須賀第一地区。第二位に逗子チーム、第四位は葉山チームと、碩心会からは両チームとも入賞しました。帰りの路では薄日も射し、全員の顔が笑顔になっていました。

### 春宵逍遙聞丁香

春宵 臘月 興何ぞ深き  
宇都宮 徳岳 作

微醉 逍遙 漫作 吟

誰邸 丁香 籬外 放

疑 応 仙 女 拂 羅 袂

春宵 臘月 興何ぞ深き

微醉 逍遙 漫に 吟を作す

誰が邸か 丁香 籬外 に 放つ

疑らくは 応に 仙女の 羅袂を 拂うなるべし

### 異国の丘

来る8月15日は日本の終戦後、早くも51年目を迎える。平和が51年間も続いたことは、日本の歴史に一度も無いことであり、平和の尊いことと、有難さに万感迫るものがある。

木村岳風先生作の「異国の丘」に

誰が唱うか遙かに聞ゆ異国の丘

哀調綿々望郷の情

北風に身を削る同胞の歌

烏拉山辺日没するの天

// 今日も暮れゆく異国の丘に

友よつらから切なかる……

私も兵籍にあつた身で、終戦後蒙古に二年間の抑留生活を送った。捕虜としての辛苦は、実際に骨身に沁みているので、次に紹介する詩も、異国に眠る人々を思うとき、同胞として声を発するすべを知りません。(秋 元)

### 中央アジア日本墓地に詣でて

エッセイスト 秋吉 茂

中央アジアを旅し、カザフスタン、アルマアタの丘にある、ソ軍に抑留され強制労働で力尽きた日本軍兵士の墓122基が、雑草の中に

並ぶ墓に詣でて、思いを詩に述べた。

安らかにと いかで奏さむ

天山の 胡歌も途絶えし

カザフスタン アルマアタが丘辺

名も記さで 放置されし

日本人墓 百二十二

ますらおの 悲しきいのちもて

護らむと 願いし祖国

星移りて 経済大国とはなりぬ

国民は 栄華に酔い痴れ

戦争を知らぬ首相は

血涙の 父祖のいくさを

侵略戦争と 宣りて恥じにき

マスコミの 舌の軽さよ

「靖国」を 憲法違反と囁せば

みまつめの灯 年毎にゆらめき細し

いくさ終りて 運ばれし中央アジア

抑留という名の 重労働に力尽き

この丘に啾啾の 白骨曝しぬ

安らかにと いかで奏さむ

落日に 灼ける天地

言もなく ただ涙垂りて

老残の ひとり詫ぶるを

赦させ給へ

夏の詩より

驟雨 石川 丈山

冥色高漢を分ち 雷声遠山を過ぐ

晚涼残雨の外 月は潔し断雲の間

(語 釈)

冥色：はての無い空の色

高漢：空高く懸かる天の河

(釈 詩)にわか雨

天の河 はるかに見えず

遠山に 雷響く

雨上がり 夜気は涼しく

月は潔し 雲の裂れ目に

夏の夜 江馬 細 香

雨晴れて庭上竹風多し

新月眉の如く 織影斜なり

深夜涼を貧って窓掩ざれば

暗香枕に和す合歡の花

(釈 詩)

雨晴れて 竹渡る風

眉に似た 三日月の 影は斜めに

夜は深く 窓を放ちて 涼しさに酔う

枕訪う 香は優し 合歡の薄紅

納涼 伊藤 東涯

満庭の竹柏鬱森森

残陽を遮却して晚影深し

高く疎簾を捲いて欄に凭つて座す

薰風吹き送る一蟬の吟

(釈 詩)

庭の竹 樹々 濃く深く

西陽ふさぎ 夕影深し

簾捲いて 手すり背に 凭れ坐れば

そよ風の 送り来る 蟬の吟声

土峰の夏雪 林 羅 山

白雪高深たり土嶺の頭

春過ぎて夏到れども漸流せず

天に上る銀扇跳て顛倒す

一柄風は涼し十五州

(語 釈)

土峯・土嶺：富士山 十五州：日本国

漸流：融けて流れる

(釈 詩)

富士の高嶺に 白雪深く

春過ぎて 夏なお融けず

銀扇 跳ねて逆立ち

あおげば涼し 日本国 (詩歌春秋より)

岩崎 岳 恵

上州の気つ腑色濃き鉄線花

吊り橋の真芯を揺らす滝笈

雉子啼いて旅の短夜眠られず

山口 岳 夕

庭枇杷の熟るるに暮れし老住い

花楓散る夕暗の風ほのか

河骨の花へ木道音立つる

石 渡 桂 岳

たなばたの笹に幼なき夢のかず

カンナ燃ゆ海青春と共にあり

戦なき世のしあわせを花火の夜

佐久間 爽 岳

捨舟に昼顔の花咲きのぼり

滴りや草せつせつと岩の上

逃げどころなき天日に梅を干す

(支部移籍)

386 根岸仁睦 逗子Aより堀内支部Aへ

(住所変更)

117 青木梅岳(新)逗子市桜山一―一七(同)

171 新井瑞風(新)平塚市明石町25―11―304

☎〇四六三―二一―五五六九

(退 会)

373 長尾介泉 (一 色)